

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和5年4月11日(2023.4.11)

【公開番号】特開2022-31413(P2022-31413A)

【公開日】令和4年2月18日(2022.2.18)

【年通号数】公開公報(特許)2022-030

【出願番号】特願2021-209996(P2021-209996)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/90(2013.01)

10

A 6 1 L 31/02(2006.01)

A 6 1 L 31/12(2006.01)

A 6 1 L 31/14(2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/90

A 6 1 L 31/02

A 6 1 L 31/12

A 6 1 L 31/14

20

【誤訳訂正書】

20

【提出日】令和5年4月3日(2023.4.3)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

送達形態における半径方向に圧縮した状態から、半径方向に拡張した状態まで拡張できる、軸に沿って延在する少なくとも1つの自己拡張型編組フレームワーク(20)から実質的になる多層構成を有する、分枝を含む動脈瘤の治療に使用される埋め込み型管腔内プロテーゼ(1)であって；前記自己拡張型編組フレームワーク(20)は、單一で所与のワイヤ直径(21)を有する、多くても196本のワイヤ(21)で形成され；この自己拡張型編組フレームワーク(20)は、いずれの不透過性カバー層も欠いており、生体適合性材料で作製されたワイヤ(21)の複数の層を含み；および前記管腔内プロテーゼ(1)の壁を形成し；各層はメッシュを形成し；前記メッシュは、前記層の複数のワイヤ(21)で格子を形成し；前記メッシュはからみ合させられており、前記層が編組時に区別できず、第1の層のワイヤが第2の層および/または他の層のワイヤとからみ合させられており、各ワイヤは、隣接する層のうちの少なくとも1つの層の前記メッシュに組み込まれてあり；前記自己拡張型編組フレームワーク(20)は、円形横断面および一定直径のシリンダー形のルーメンを含む、埋め込み型管腔内プロテーゼ(1)において；半径方向に拡張した状態において、半径方向に拡張した状態における前記埋め込み型管腔内プロテーゼ(1)の壁の厚さ(T₁)対ワイヤ(21)の前記直径(21)の比(T₁/21)は、2.0から3.0であり；および前記編組フレームワーク(20)の表面被覆率(SCR)は、少なくとも35%および多くても50%であり、複数層構成のワイヤは、隣接する平行するワイヤ間ににおいて一定の距離を保つようにシフトし、前記SCRが湾曲状態および直線構成において維持されることを特徴とする、埋め込み型管腔内プロテーゼ(1)。

30

【請求項2】

前記比(T₁/21)が少なくとも2.5である、請求項1に記載の埋め込み型管腔内

40

50

プロテーゼ(1)。

【請求項3】

前記自己拡張型編組フレームワーク(20)が、少なくとも90本のワイヤおよび多くても130本のワイヤを含む、請求項1又は2に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ(1)。

【請求項4】

前記生体適合性材料が、チタン、ニッケル・チタン合金、任意のタイプのステンレス鋼、およびコバルト・クロム・ニッケル合金からなる群から選択される金属基材である、請求項1～3のいずれか1項に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ。

【請求項5】

前記生体適合性材料が、ニチノール、Nitinol-DFT(登録商標)-Platinum、およびPhynox(登録商標)からなる群から選択される金属基材である、請求項1～4のいずれか1項に記載の埋め込み型管腔内プロテーゼ。

10

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

少なくとも2.5の比T₁/T₂₁を有する、からみ合わせられた複数層構成は、重要な好都合な技術的特性をもたらす。動脈瘤が、湾曲の外側にある場合、分枝、例えば上大動脈分枝30の開存性を保ちながら、望まれない損傷を与える乱流33を滑らかな層流36に変換することによって、動脈瘤囊の保護的に組織化された血栓を形成するためには、湾曲の外側においてメッシュの最適なSCRおよび最適な開口径を設定することが、最も重要である。本発明のからみ合わせられた複数層構成のワイヤは、隣接する平行するワイヤ間において一定の距離を保つようにシフトし、SCRが、湾曲状態および直線構成においてほとんど同じままとし得るようにする。それどころか、T₁/T₂₁が2.0未満の従来の単一層のメッシュ様のチューブが、湾曲した管腔内で展開されるとき、湾曲の外側におけるSCRは、直線構成におけるSCRよりも遙かに低い。それゆえ、本管腔内プロテーゼ1の比T₁/T₂₁は、2.0超、好ましくは少なくとも2.5、一層好ましくは少なくとも3.0、さらに一層好ましくは少なくとも3.5、さらに一層好ましくは少なくとも4.0である必要がある。

20

30

40

50